最終号

みとめ合い　思いやり　ともに輝く！

男女共同参画情報紙

Duet デュエット

Vol.49

2025.3

「デュエット」には、性別に関わりなく、デュエット（二重奏）により
互いに協力して未来へ向かうという意味が込められています。

《元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。》

《他に依って生き、他の光によって輝く病人のような蒼白い顔の月である。私共は隠されて仕舞った我が太陽を取り戻さねばならぬ》

明治時代、平塚らいてうが雑誌『青鞜』に寄せた発刊の辞に、それまで置かれていた状況に対し、女性たちが共感するかのように、女性解放運動は広がりを見せていった。

その過程で発生した母性保護論争では、平塚らいてうが「母親は国の支援に守られるもの」と訴える一方で、与謝野晶子が「男女は平等である」との考えを述べたことに端を発し、多くの知識人が議論を交わした。ここで交わされた女性の権利、労働、育児に係る方法論に関する議論は、デジタル化や働き方の多様化の中に生きる現代の私たちにも多くの示唆を与えている。

その後、高度経済成長期を経て発生したのがアグネス論争である。アグネス・チャン氏が乳児を連れてテレビ・講演などの仕事を再開したことに対する、「職場に子どもを連れてくるとは周囲の迷惑を考えていない」「仕事へのプロ意識がない」等の批判から、業界関係者や評論家、コメンテーターがそれぞれの立場から議論を交わした。

この背景には男女雇用機会均等法の施行、それに伴う女性の社会進出の機運がある。当時は、女性は婚約したら寿退社、内助の功で夫を立て、子どもを産めば「三つ子の魂は百まで」と、子どもが小さいうちは母親の手元で子育てするのが当たり前とされ、フルタイムで労働と育児が両立できる業種は限られていた。

アグネス・チャン氏は、参議院「国民生活に関する調査会」において、参考人として育児休業法の実現や保育環境の整備を訴えた。アグネス論争は、「子連れ出勤」の是非に留まらないものだった。

そして現在、いつの時代も女性が背負うとされた問題は、徐々に誰でも平等という形に変化しつつある。例えば、育児休暇は女性だけでなく男性も取得できる世の中になった。

さらに、性別による役割分担の解消に向けた動きのみならず、世界では LGBTQ に配慮した同性婚を認めつつある。

台湾では、最高裁判所にあたる司法院大法官会議での「同性カップルの結婚の権利が認められないのは違憲である、２年以内の法改正を求める」との判決から、国民投票を経て、2019 年に同性婚が認められることになった。現在では 1 万組以上の同性婚カップルが誕生している。ネパールでも 2023 年に、タイでも 2024 年に同性婚が認められている。

ネットの普及により色々な考え方や暮らしの情報が溢れている現在、「女性だから」「LGBTQ だから」という考えではなく、様々な立場の方々が理解や協力をし合い、誰もが平等に自分らしく暮らしていける世の中になっていってほしいと願っている。

～ Duet 最終号の発行にあたって ～

Duet は、1992（平成 4）年に発行し、それぞれの協力編集員の立場から時代の変化や話題の出来事などを執筆し、皆様にお届けしてまいりました。

これまでご愛読いただきました皆様及び企画・編集に携われた皆様に改めて感謝申し上げます。

今号をもちまして Duet の発行は終了となりますが、引き続きソーシャルメディアなどを通じて、男女共同参画に関する情報発信に努めてまいります。

これからも上尾市男女共同参画推進センターをよろしくお願いいたします。

上尾市人権男女共同参画課
Facebook

上尾市人権男女共同参画課
X

相談を行っています

男女共同参画推進センターでは、自分の生き方や家族との関係、離婚問題、DV（暴力を振るわれる、暴言を吐かれる）など、様々な悩みを抱えている女性のための相談を行っています。
カウンセラー・弁護士・相談員が対応します。

☎048-778-5110

受付時間　月～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前 10 時から午後 4 時まで

配偶者暴力相談支援センター
【DV 専門相談】

秘密厳守

女性のための相談など
【毎週木曜日予約状況更新】

相談無料

デュエット　第４９号　2025 年（令和７年）３月発行
企画・編集　野村美佐子（デュエット編集協力員）　発行　上尾市男女共同参画推進センター
〒362-0014　埼玉県上尾市本町 1-1-2　TEL 048-778-5111(直通)　FAX 048-778-5112
人権男女共同参画課ホームページ　https://www.city.ageo.lg.jp/soshiki/s209500/